

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174600536		
法人名	有限会社 ケアサポートふる郷		
事業所名	ケアサポート・ワンズホーム (1階)		
所在地	帯広市西1条南36丁目1-27		
自己評価作成日	令和2年1月31日	評価結果市町村受理日	令和2年4月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0174600536-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	令和2年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ◆理念に沿って利用者さんの立場に立ち、楽しい生活を送れる支援に努めている ◆食べることが生きることにつながるので、旬の食材を活用し、美味しく、楽しい食事ができるように支援している ◆開設当初より看取りに取り組んでおり、家族・職員ともに情報を共有することで家族の安心も得られ、職員のスキルアップにつながっている ◆パーソンセンタードケアに力を入れている ◆おはぎ作り、餅つき、蕎麦打ちなどの行事と一緒に参加している ◆誕生会は個々に実施。本人の希望の食事を聞き、家族にも来所してもらい、プレゼントを渡してお祝いしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は帯広市都心部から南へ5km程にあり、国内有数の清流「札内川」に隣接した自然環境に恵まれた閑静な住宅街にある。木造2階建ての事業所がある敷地内には菜園や植木と石をあしらった庭園があり、利用者にとって心が和む楽しみの場所である。町内会行事(花見など)には利用者が参加したり、事業所の夏祭りには80名を超える地域住民などが参加したりして交流を深めている。また、保育園の運動会の練習を見学するなど地域との交流を深めながら利用者にとって楽しみにもなっている。近隣の方の支援を得て利用者と一緒に沢山の種類の野菜を栽培し、旬の野菜が食卓を飾り話題にしながら食事を楽しんでいる。職員は利用者の自己決定を尊重し、個人事業主と提携して、毎月2回ペースで1時間、十勝産の羊毛を加工した小物作りをしながら、やりがいを見出すような支援をしている。看取りは開設当初から利用者、家族の希望に添うよう積極的に取り組み、毎年複数看取っているため、全く気負いなく自然体で取り組みに臨んでいる。利用者、家族との意思疎通、職員同士の意思疎通が図られ、多くの職員が介護福祉士資格を取得して質の高いケアに努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、いっしょに、たのしみ」の理念を共有し実践につなげているが、その日の職員により連携が取れているかに差があると思う	事業所理念は廊下などに掲示し、申し送り時等で職員全員が唱和し、理念を共有しながら日々のケアに繋げている。	地域や福祉事業等周辺が変わりつつあり、利用者の介護度も上がってきていることから、利用者のニーズや地域のニーズ、事業所の状況の変化に合わせて、事業所理念の作り変えについて、職員で話し合うことを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の新年会、花見などに参加し顔見知りになっている ホームの夏祭りには参加を呼び掛けている	町内会に加入しており、町内の新年会や花見等に参加し、地域住民と交流している。また、事業所行事の夏祭りには地域住民、家族などが参加して交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りには地域の方、家族も参加され、交流に努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではヒヤリハット、事故報告などを行い、意見交換されている	年6回開催し、地域包括支援センター職員、町内会、家族等が出席して、事故報告や活動報告等を行い、意見や助言等を得て運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	社協、包括センターなどと連携している (夜間、離設者が出た際には、包括センターより連絡をいただいた)	市職員とは運営などについて相談を行い、助言を得て運営に反映させている。また、帯広市ケア会議に出席し、ケアマネ協議会とグループホーム協議会の役員として参加し協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離設者がおり、赤外線センサーだけでは対応に限界があるため、やむを得ず施錠を行っている。精神的安定を図るため、散歩に出かけたり、塗り絵などで興味を持ってもらい、気分転換できるように努めている	身体拘束等の適正化のための対策について、日中は玄関を施錠しない、不用意にベッド柵を使用しない、車いすからの立ち上がりを阻止するような拘束具は使用しない等、職員間で確認・共有し実践している。徘徊願望の強い利用者があるので、徘徊初期対応に十分配慮し、地域の方々の支援を受けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内外の研修、職員間の話し合いで虐待防止に努めている		

ケアサポート・ワンズホーム（1階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は知っているが、職員レベルでは学ぶ機会を提供しているが、活用にはいたっていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族来所時に話し合い、意見・要望などを聞き、説明、理解してもらえるように支援している。主任、副主任、長期間つとめている職員は説明できている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	夏祭りでアンケートを実施し、職員間で結果を共有している	利用者とは日々の会話から意見や要望を聞くようにしている。家族からは電話や来訪時、行事等で意見や要望を傾聴し、対処できるところは話し合いを行い、職員間で共有し運営に反映されている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例のミーティングや日常業務の中で意見を出しあっている	管理者は、職員が率直に意見等を言いやすい雰囲気や大切にしておき、普段の業務や会議、個人面談から出された意見や要望等を運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務月報を提出してもらうことで状況把握に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会はあるが参加者が少ない。参加者も決まった職員が多い		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や交流会の案内を掲示し参加を促しているが、参加者は少ない		

ケアサポート・ワンズホーム（1階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の聞き取りのほか、情報を確認しながら、定期的に困りごと、不安ごと、要望などを聞き、関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	信頼関係が大切であるため、お互いに耳を傾けながら関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期に聞き取りを行い、必要としている支援の対応などを積極的に行っている 機能訓練型デイサービスなど、ほかの社会資源を利用することもある		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	やりがいを持ってもらえるよう、できる範囲で一緒に、料理の盛り付け、下ごしらえ、食器洗い、洗濯物たたみなどを行い、一方的にならないよう支援している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時に現状を報告して情報共有し、本人を支える関係を築けるよう支援している 来所時に食事介助を行ってもらうこともある		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日用品の購入と一緒に出かけたり、以前の勤務先で買い物に出かけるなど、関係が途切れないように支援しているが、そうならないこともある	理・美容室などの馴染みの場所への外出は職員が付き添い、馴染みの関係継続を支援している。馴染みの店で生活用品の購入などの希望があれば、職員同行で買い物したりして馴染みの関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自発的に行う洗濯物たたみなどで、利用者さんが孤立することなく、協同でかかわる環境にある 仲良く助け合いながら、支えあって生活できるように支援している		

ケアサポート・ワンズホーム（1階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院となっても、お見舞い、ICへの同席などを行っている					
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通の難しい方にはできていないことがあり、一方的になっていることもある	職員は日頃の業務の中で利用者の意向や思いを把握することに努めている。把握した意向や思いは職員間で記録に残し、会議で検討しながら今後にかかすように取り組んでいる。				
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルを参照し、把握に努めている					
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活での変化、体調不良など、現状把握に努め、何に困っているのか、何がしたいのかななどをファイルに記載しケアにつながるよう支援している					
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定例のミーティングや個人ファイルの情報をもとに意見交換を行い、介護計画を作成している	家族や利用者の意向を取り入れながら、モニタリングや会議で出た意見を基に介護計画を作成し、家族の同意を得ている。また、特段の体調変化が見られるときには随時対応して、常に現状に即した介護計画を作成している。				
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の出来事、気づき、日中と夜間の様子などを詳しく記載し、情報共有しながら介護計画を作成している					
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な範囲でニーズに合った対応を行えるよう努めている					
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育所行事、町内会行事に参加している					
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、内科医の往診があり、歯科医の往診も受けている 精神科、眼科、耳鼻科、泌尿器科など、必要時に受診支援している	希望するかかりつけ医受診の継続を支援している。基本的には家族同行での受診になっているが、職員が同行受診することもある。協力病院による月2回の往診がある。				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム長が看護師のため、適切な気付き、判断で迅速な対応ができています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換や相談は行っており、関係性は築かれている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向け、家族と職員間で情報、看取りに関する方針を共有している 看取りの同意書を家族、医師、施設で取り交わしている	入居時に「重度化した場合における対応に関わる指針」を利用者及び家族に説明し同意を得ている。看取り経験もあり、早い段階から利用者や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながらターミナルケアを実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て訓練を定期的に行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員数の少ない夜間帯には不安がある	消防署と消防団、近隣住民の協力を得ながら、避難訓練を年2回実施している。河川氾濫を想定した災害訓練も実施しており、昨今の異常気象に対応した対策も検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しながら、楽しく会話できるように声掛けに注意してよい関係を築けるよう努めている	利用者本人の尊厳やプライバシーを尊重しながら、声掛け等の接遇について会議や研修で学び、尊厳について職員で共有化を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が難しい利用者さんも多いため、要望をくみ取れるように声掛けを工夫している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何が希望なのか、その日、その時の状況に応じて支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自らおしゃれに気を遣う方は少ない		

ケアサポート・ワンズホーム（1階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材、家庭菜園の野菜などで、新鮮でおいしく食べられるように支援している 好み、アレルギー、嫌いなものなど、個々に把握し提供している	利用者と日常の会話の中から好みに応じた献立や季節メニューを取り入れている。職員と一緒に調理等を行ない明るい雰囲気ですべてしている。畑の旬の野菜を食材にして季節感のある食事を提供し楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人の嚥下能力を評価し、食形態をキザミ、ミキサー、おかゆなど工夫している 水分摂取量の少ない方が水分をとれるよう、本人の好みの物を提供するほか、摂取量をチェックしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科による往診、指導を受けている 自分でできる方は声掛け、見守り、できない場合は介助している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け、誘導している 夜間もその時の状況により、リハビリパンツやオムツを使い分けている	排泄チェック表を活用し、定期的な時間で声かけを行ない、トイレ誘導して排泄の自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖や整腸剤の使用のほか、腹部マッサージの実施 水分が取れるような声掛け		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間はおおむね決めているが、体調、個人の希望を尊重できるように支援している	週2回の入浴を基本としており、利用者の体調や希望にあわせて入浴できるように取り組んでいる。入浴を拒む場合は、清拭やシャワー浴で清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調により日中でも居室で休んでもらうが、昼夜逆転とならないように配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬が変更の際には、往診記録、連絡ノートで確認している 誤薬とならないよう、声を出して確認するほか、日頃より意識喚起している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道の講師が定期的に指導に来所している 重度化しており、全員に役割があるとは考えづらい		

ケアサポート・ワンズホーム（1階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	休浴日に外出支援を行っているが、自立度の高い方が多く外出している	利用者の介護度が進んできており、その為に外出の機会も少なくなってきた。職員は利用者に少しでも外気を浴びさせるために、散歩やドライブ、町内の祭りに参加できるよう外出支援に力を入れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	店舗での買い物は、会計時に見守り、支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話対応を行っている 手紙などを読むことができない方には、内容を伝える支援を行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には物を置かず、十分なスペースで車いす移動ができる 気温、湿度の調整を行っている	広い居間は明るく、居心地の良い空間になっている。季節感や利用者の手作りの品など、生活感ある飾りつけで心地よい共有空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファなど、気の合う利用者さん同士が、好きな場所に座れるよう配慮している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具などを持参してもらい、居心地よく暮らせるよう支援している	使い慣れた馴染みある家具や仏壇等を持ち込み、家族の写真や思い出のある品々を持ち込みながら居心地良く過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒リスクの高い利用者さんには赤外線センサーを使用し、安全に配慮している トイレなどの表示を大きくし、分かりやすく工夫している		